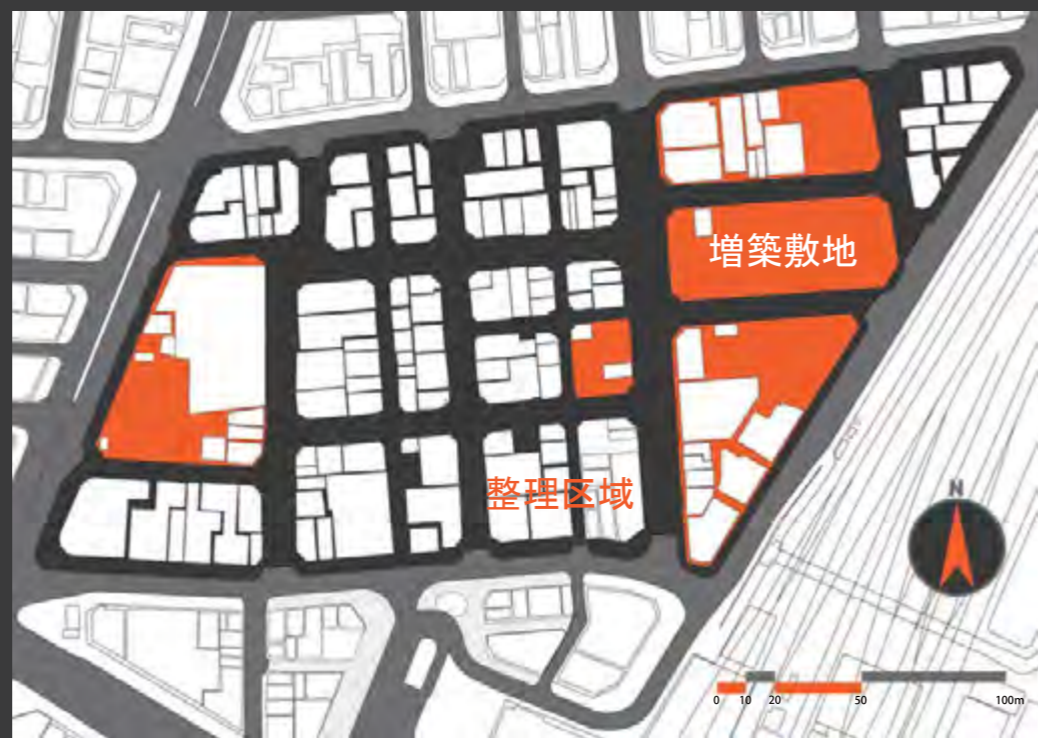


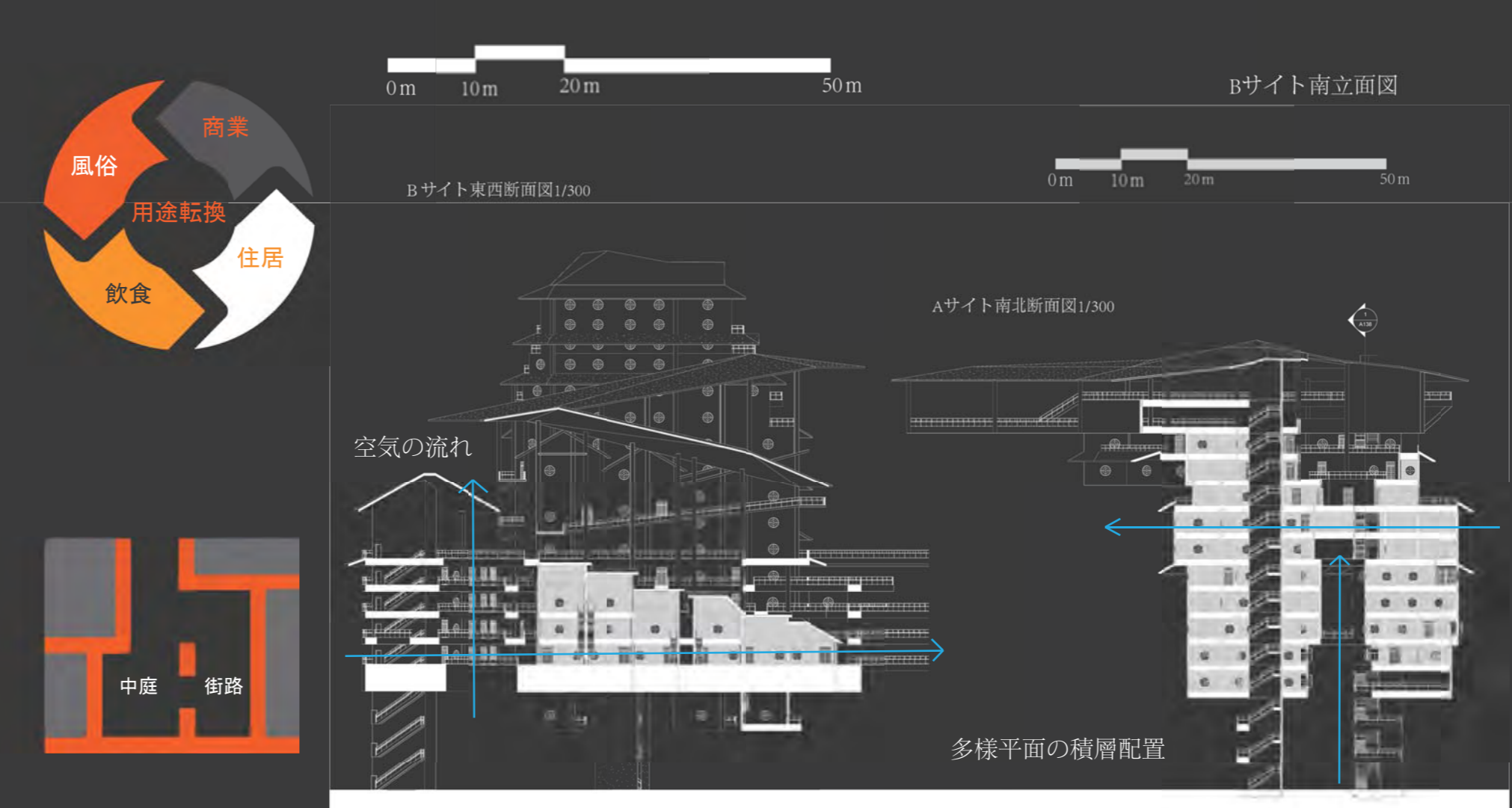
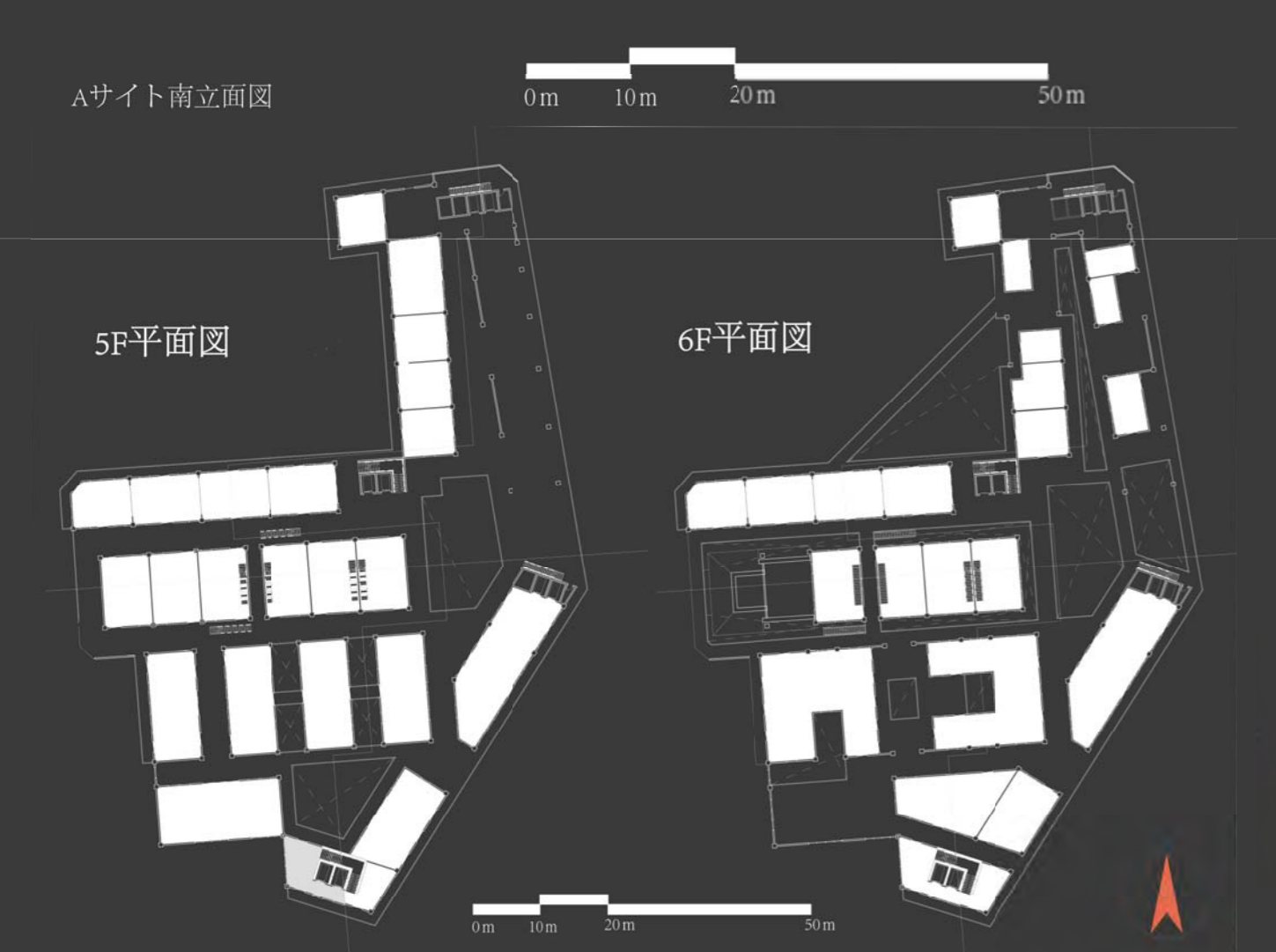
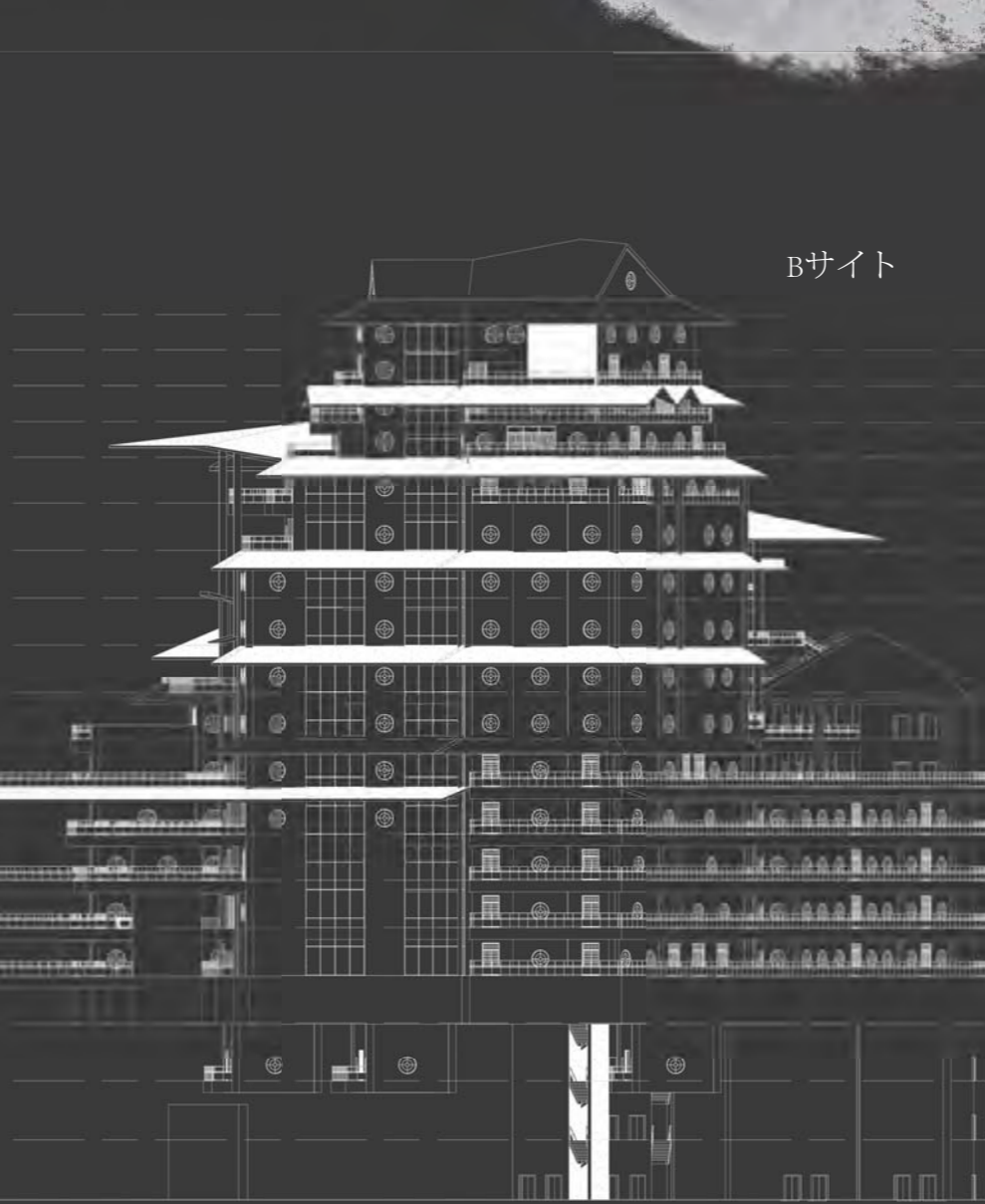
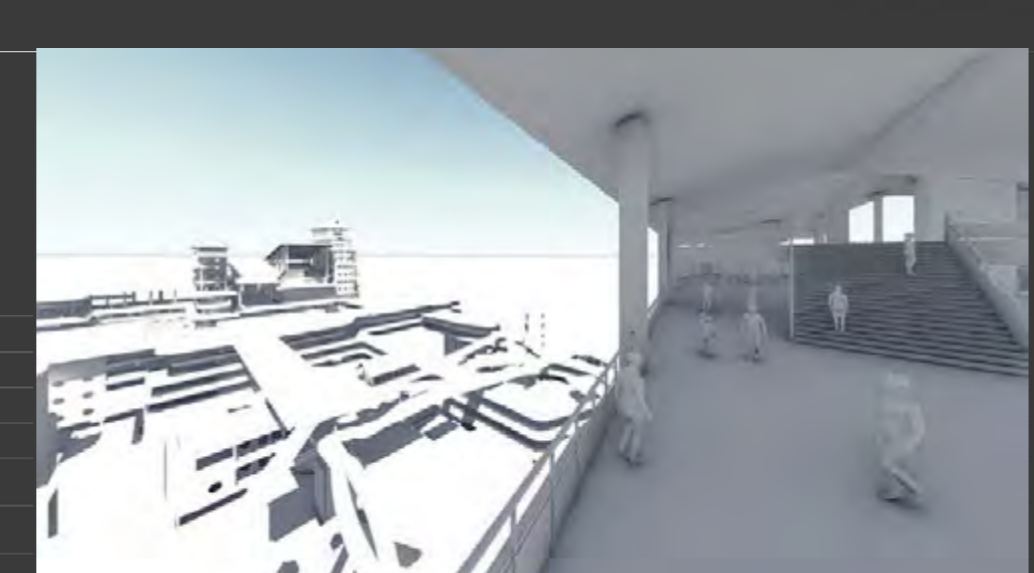
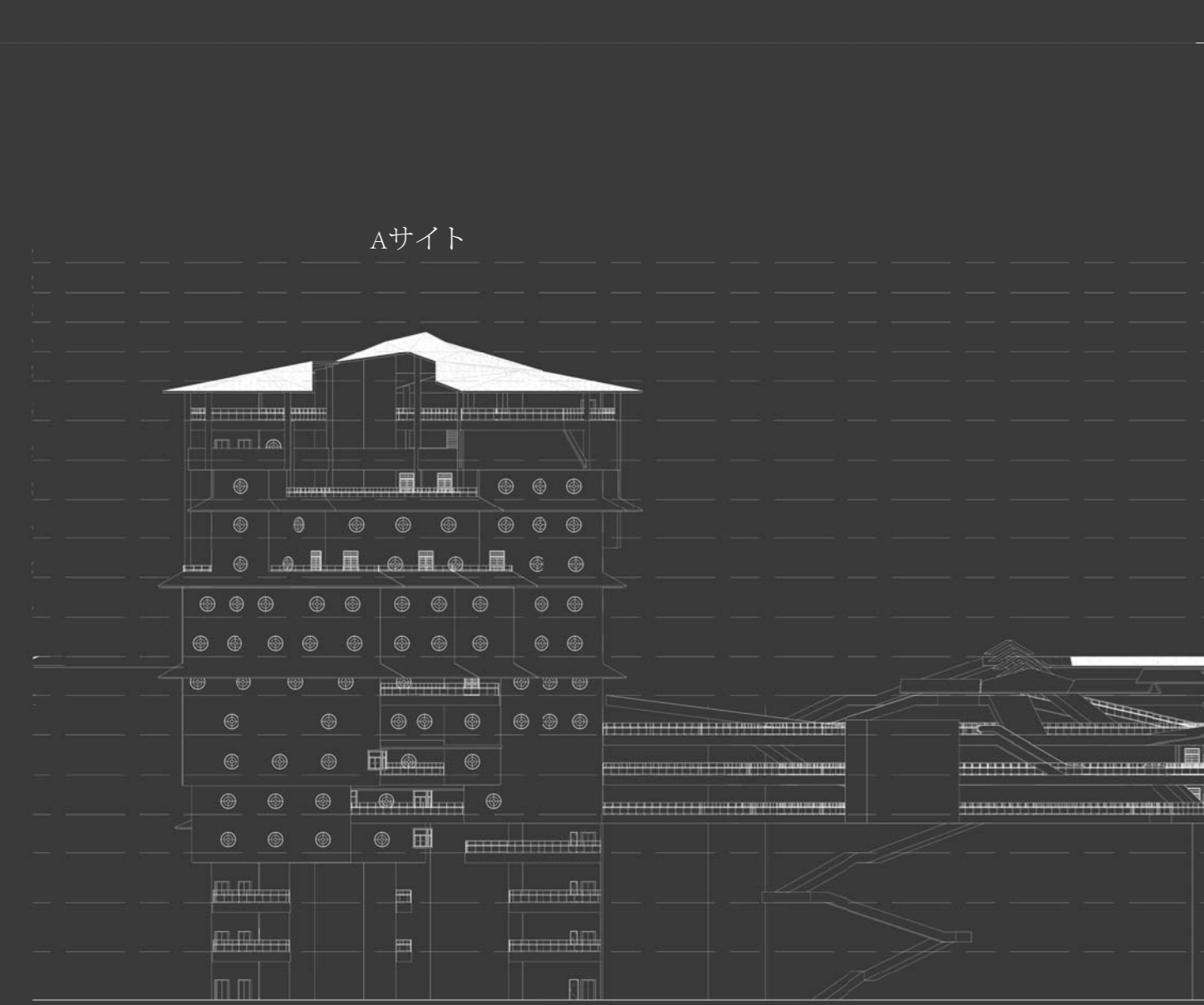
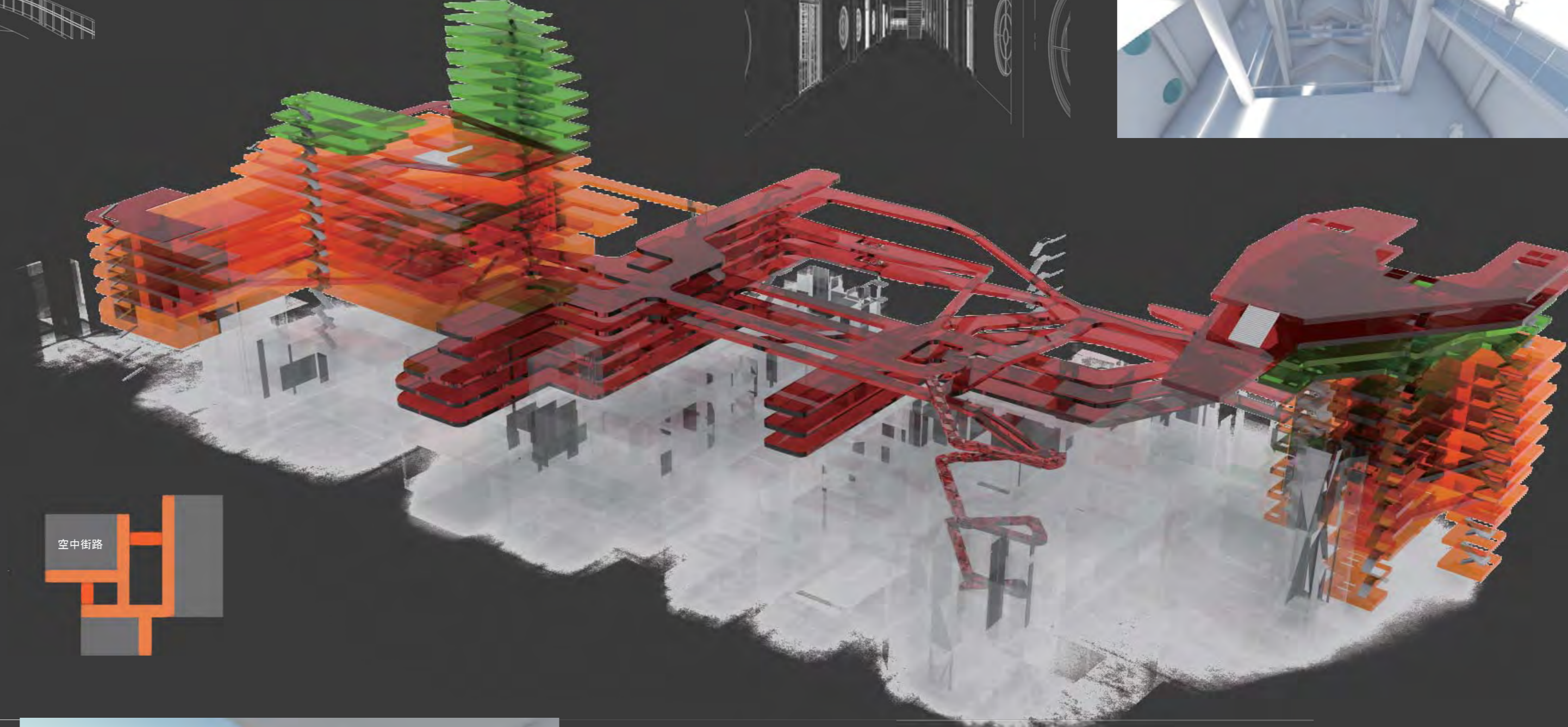
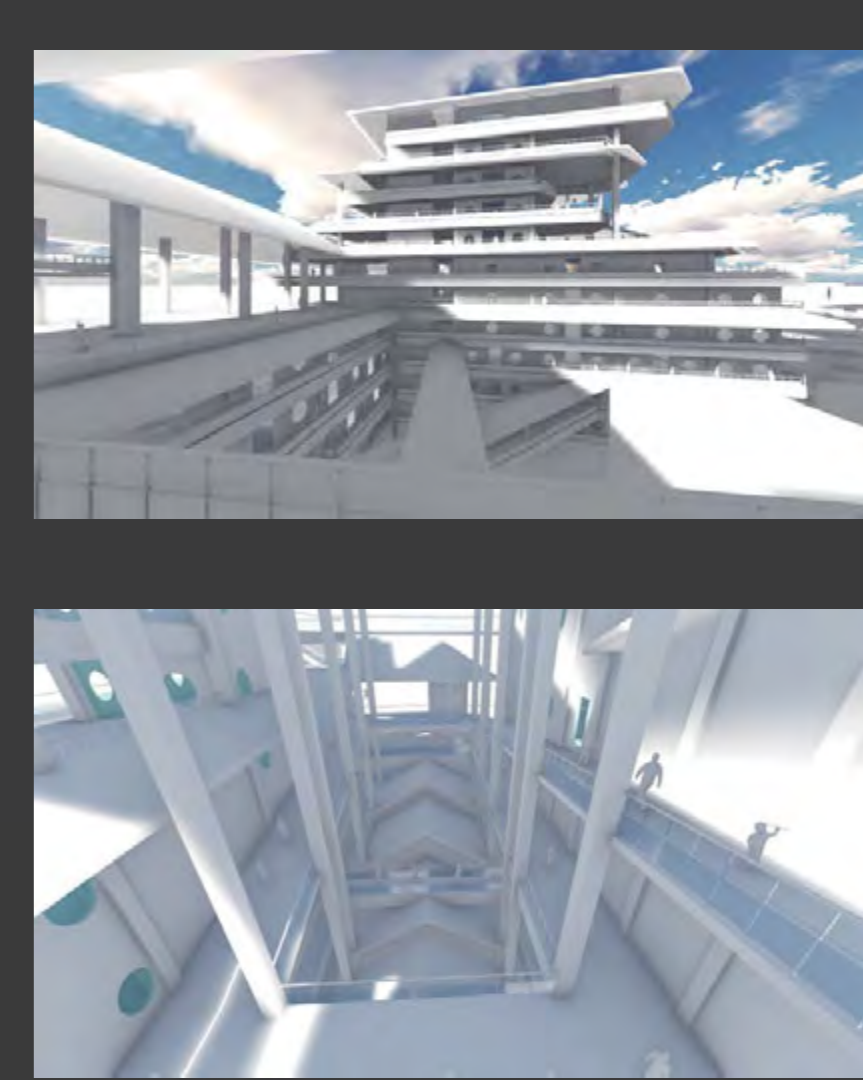
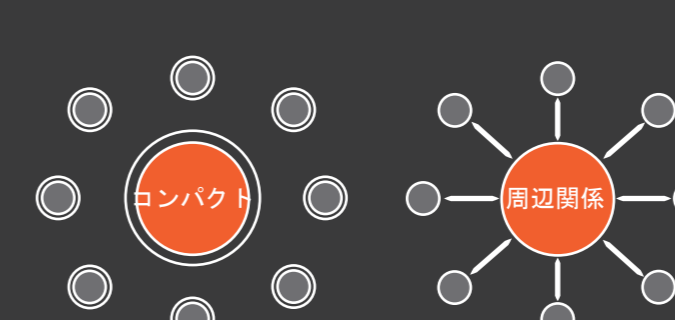
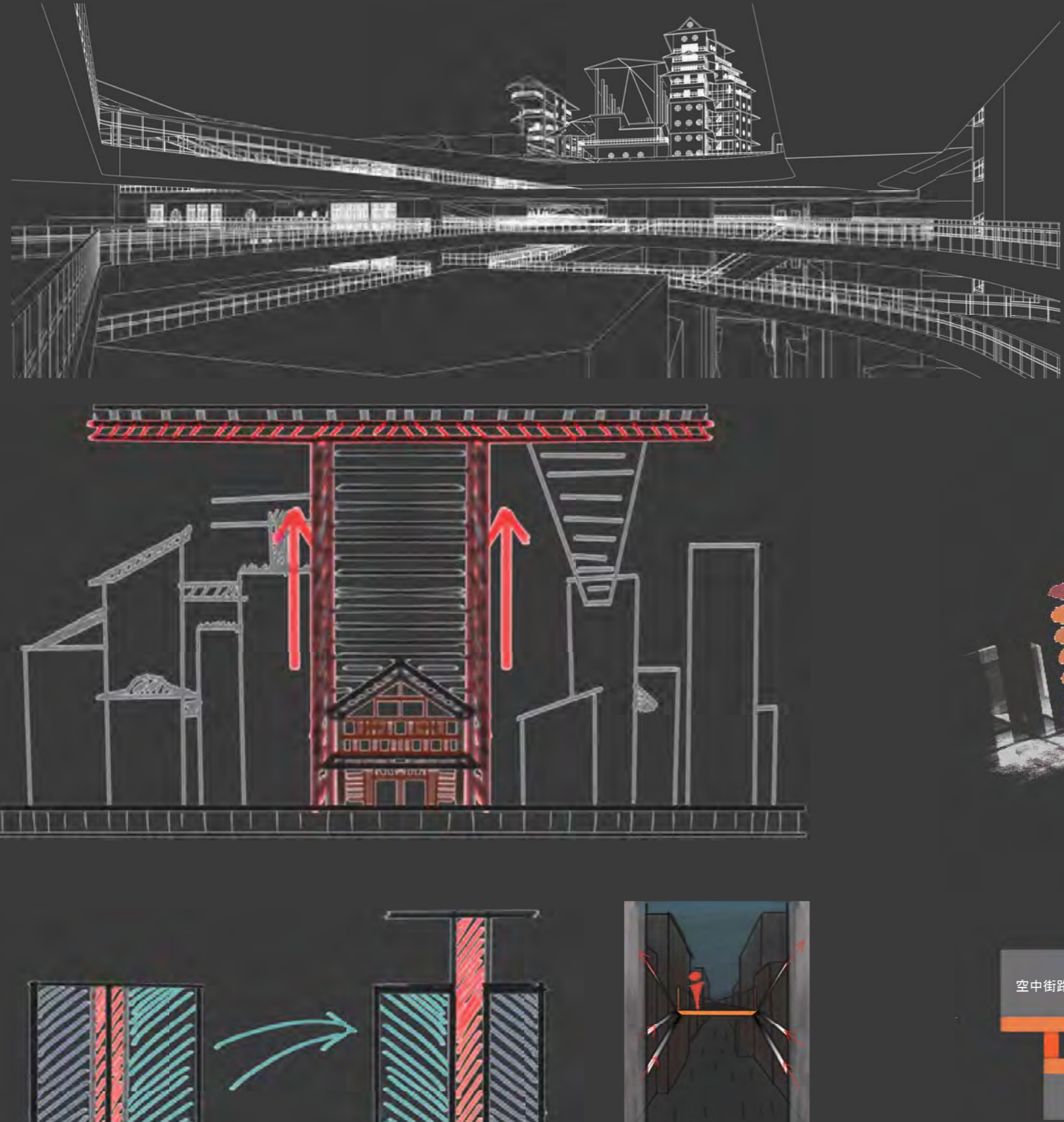
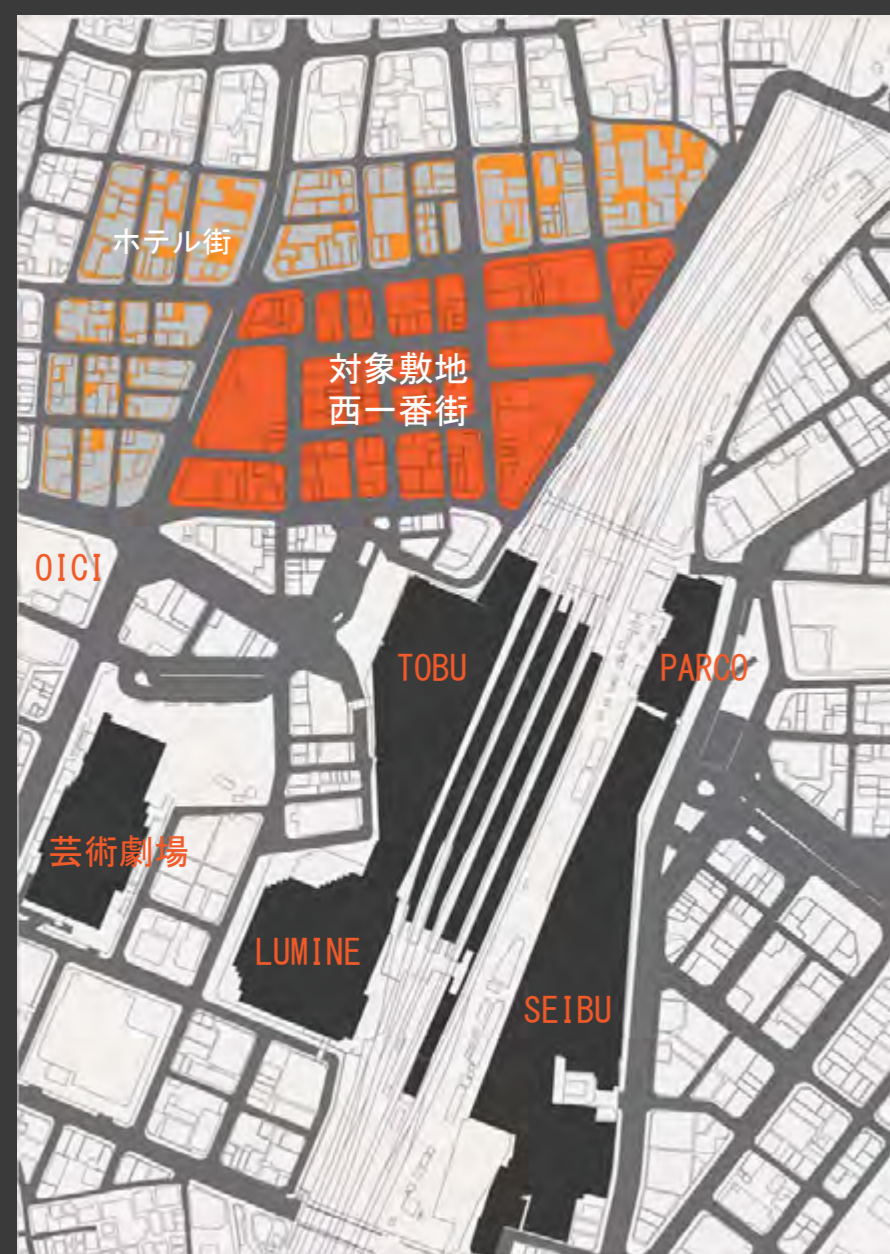
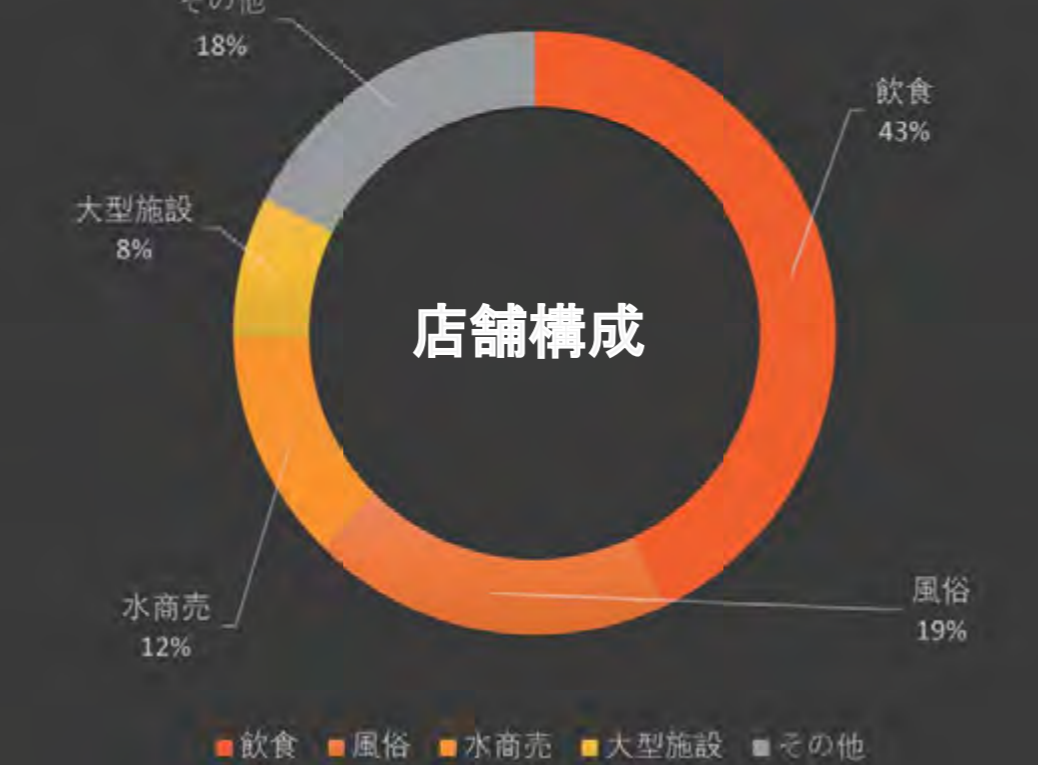
研究背景と目的：
経済と技術の発展により、どの都市空間も高密度化した。メガシティは密度ピークを越えて安定して発展するのが一般であるが、これから成長していく都市や再発展する区域はまだ存在する。その一方で発展ばかり考えて次々と伝統建造物や空間を破壊し壊れた新しい、不親和な建築ができていく。本研究では発展をしながらも多様な、多文化の空間共存を前提とした機能的なコンパクト立体高密度空間設計を検討する。また高密度高層建築同士の関係性と統合性による界隈保全への影響を核し、スプロール防止の手法を提案する。



2. 池袋西一番街と計画敷地
2-1. チャイナタウン化
池袋北口は1980年代以降に増加した中華系の店舗、中華料理店だけでなく、約200店舗もある。中華料理店だけでなく、食料・雑貨店、旅行代理店、不動産仲介店、美容院、保育園、自動車学校、インターネットカフェなど様々な種類の店や施設がある。周辺の建物には中国系の店舗、オフィスが入居している。貿易、旅行、国際通信、翻訳・通訳、物販、IT（情報技術）、新聞、出版など業種は様々。一見目に付きにくいところで、池袋北口のチャイナタウン化が確実に進んでいる。
2-2. 店舗情報
西一番街では飲食と風俗産業が発展し、全体店舗数の75%である。激しいテナントの入れ替えが続いているが、何十年も動かない店も存在する。中国系の飲食店が激増に負けない数であるが、外来的観光客向きではなく、現地住民と日本人に長期滞在の中国人向きである。
2-3. 人工照明の利用
31m建築が主体である中高層建築群が高密度で建設されているが、裏道には配管と避難階段が林立している。窓やほかの開口部は常に閉鎖、看板用になるため、採光は人工照明に頼る。
2-4. スプロール防止状況
風俗関係の周辺へのスプロールが進行している。風俗自体よりラブホテル、成人用品店などサポート店舗が周辺住宅地地域まで浸透し、未成年者には悪い影響が発生している。
2-5. 計画敷地
東京都副都心である池袋駅の北口地区は戦後の間市から昭和時代の区画整理を経て現在のように歓楽街が広がり、多くの飲食店や風俗店などが立ち並び、住居や病院が点在している。歓楽街であるためだんだん高層高密度化してきて街全体が夜の王国となっている。新宿歌舞伎町に似たような雰囲気を持ち、埼玉県民と豊島区民だけの歓楽要求を支えるための街である。駅歩道であるが他の商業機能とはっきりと分別していることが特徴である。または東口を繋ぐ歩行者専用の地下通路や東口への歩道橋など立体的な交通システムがあり、自律しつつ周辺地区と連結していることが特徴である。西一番街の駐車場と空中の空間を取り上げて研究する。



3. 計画方針：界隈保全と機能的意匠
3-1 コンパクトネス
歓楽施設である飲食、ゲームセンター、カラオケ、風俗と水商売が数多く存在する西一番街、そのほかにも産業を支える書店、住宅や医療機関が点在している。外部からの影響は遮断できる。おかげで周辺の大型デパートや劇場なども完全自分なりの役割を担うことができる。都市的な役割を考え、増築も改築も本来の機能を変えず、よりサポート的な施設（住空間、供給施設）と同じ属性のものを作る。今回の設計により西一番街をよりコンパクトにした建築群を作る。
3-2 スプロール防止
風俗・陪都施設が多い上、戦後間市の印象がまだ残っている。一番街周辺もその影響で住宅地との間にホテル街が出来上がり、だんだん外側へ浸透しようとする傾向が見える。増築部分の設計は内部のためだけではなくスプロール防止のバリアとしての役割も望ましい。外部から直接上部中心部へのアクセスできるように設計し、通路とゲートの二重の役割を満す。つまり現在の一番街を良い都市環境のために誘導できる。間市が再開しないようにまとまった自律的な建築群を目指す。
3-3 伝統意匠と現代意匠の混在
店舗更新の原因で一番街内部には個性のある新しい店舗もあるし、何十年も人気ある伝統飲食店もある。低層部には古い戸建てが存在しながら高層部には屋上アパートがある。増築部分はこのような雰囲気を活かし既存空間と衝突しない、新たなものを創造しつつ融合していくことが望ましい。
3-4 伝統仕上げを活かす
都市の建設とともに効率と利益を重視するためだんだん冷たく感じる仕上げが出来上がる。将来的空間に懐かしさを持たせるためにはこれからの設計で最新技術による基幹施設や空間を伝統的素材と工法で仕上げるのが望ましい。未来映画や妄想絵のようにいくら発展していても本来の魂を失わない、懐かしさを感じる近未来的なまちなみを最終目標とする。



4. 設計計画
4-1. 配置計画・平面計画
東西の空地や駐車スペースの上空に新築し、A、Bサイトを空中の回廊でつなぐ。空中で平面空間を利用し現存建築を形式としていかに。
4-1. 断面計画
空間の立体ネットワーク化により便利で交通システムと高効率利用を計画する。
①空中回廊（縁側）
空中のつながりにより独立していた建築空間を立体化し高層空間でありながら便利な動線が得られる。または伝統空間を現代建築への再検討を考える。
②ユニット
メタボリズムに倣ってテナント更新に最適な空間を考える。インフラの自由度向上を目的とする。用途を考慮し独立している空間を目指す。
③積層
高層化の建築群を断面から考え、上下関係とコア、吹き抜けなどの構成を検討する。
④基幹施設
メガストラクチャーの運用であらゆる変化にユニット変化に対応できるような構造体を検討する。
4-3. 高層高密的空間利用
利用率を向上しつつ中心市街地である歓楽街の将来的な発展に対応する。
①吹き抜けと室内大空間
光より大空間を設計することで、高層部でも囲まれながら大空間を楽しめる。
②秩序
高層空間をより発展していくために、建築の設計から利用方法まで規定がないとスラム化になる可能性がある。
③空間の共有
増築とともにコミュニケーションを考え空間の共有から考え方の交流を進捗する。
④呼吸
歓楽街とした西一番街は多少住居が存在するが、夜の街とし大量の飲食店が存在するため光より空気の流通が大切である。
⑤コア集約
隣接部分で近接状態の独立しているコアを統合し、快適で安全なコア空間を整理する。または新築部分へのアクセス通路として運用する。

長屋をイメージした平面計画